

普及センターだより

くりはら

第 140 号



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木 5-1
TEL 0228-22-9404 (地域農業班)
0228-22-9437 (先進技術班)
FAX 0228-22-6144
E-mail khnokai@pref.miyagi.jp
URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khgsin-n/>

宮城県栗原農業改良普及センター



今年の稲作は、田植え以降気温日照時間など、平年を上回る日が多く、生育は順調にすすみ、管内の出穂期は、7月31日となりました。8月15日に発表された作柄概況は、「やや良」となったものの、9月以降は、度重なる台風の発生と秋雨前線により不順な天候が続き、品質などへの影響が心配される所です。

今年は、行政による生産数量目標の配分が廃止され、宮城県農業再生協議会が需要や民間在庫を考慮し示した「生産の目安」により水稻を作付けした初年目でした。10月からは、農業の新たな保険制度の加入申し込みがスタートするなど農業政策の転換期でもあります。

このような中、栗原市における農業の産出額は219億円（H29）と県内三位にありますが、内訳は、米が103億円、畜産が94億円と、この2品目（二つの柱）で約9割を占める偏った構造になっています。

このことは、品目の価格下落や、その出来具合、不慮の事故が発生した場合に、大きな影響を受けることを示しています。記憶に新しいところでは、平成26年に米価が著しく低下しましたが、その時の農業産出額は前年と比較し44億円の減額（前年比

で約2割減）となりました。

栗原市では、きゅうりやそらまめ、だいこん、いちごなど、野菜の産地として実績があるほか、最近では、大型園芸施設により、パプリカ、トマト、サラダ菜等が栽培されています。

さらに、毎年15名程度の新規就農者がおりますが、トマトなどの野菜を経営の中心にしたいと計画している農業者も少なくありません。

このような状況を踏まえて、栗原地域事務所（普及センター含む）では、農業産出額を安定して確保するために、米、畜産に続く三つめの品目（柱）として園芸の振興が必須と考え、「栗原地域産地戦略プラン」を策定し野菜などの生産を支援しています。

そのひとつとして、新たな産地づくりのため、栗原市、栗っこ農業協同組合と連携し、ズッキーニの生産拡大をすすめています。

安定した農業産出額の維持・拡大のため、ひいては栗原地域農業の振興のために、地域の特性を活かした、園芸の振興を推進してまいりますので、よろしくお願ひします。

農業普及指導専門監

堀内保昭

実りの向上へ向けて土作りを実施しましょう



視察研修会で農業女性のやる気UP!

農村女性の社会進出や女性後継者育成に対する意識の向上を図るため、9月3日に管内の女性農業者を対象に栗原農村女性リーダー研修会（視察研修会）を開催しました。

午前中は、町の集会所を利用して餅料理等を提供している柴田町の「農村レストラン縄文の幸」を視察し、開設の経緯を聴いたり、実際に調理している地域女性との意見交換をしました。

午後は、酪農の個別経営体が法人化して、ヨーグルト等の加工・販売を開始した蔵王町の「株式会社ゼルコバドリーム」を視察し、経理担当の取締役（夫人）や各部門担当（長女、次女）のお話を聴きました。

視察を通じて、地域活性化や後継者育成に対する、参加者の意識向上が図られました。

「農村レストラン 縄文の幸」にて地域女性と意見交換



「株式会社ゼルコバドリーム」にて取締役（夫人）から講話



加工を頑張る農業女性を応援します!

講師との意見交換



水まんじゅう



らくがん

「わかやなぎ農産物直売所くりでん」の餅加工部「くりでん娘（こ）」を、地域をリードする女性経営体に育成するため、8月6日に農村女性起業講座（新商品開発講座）を開催しました。若柳地区の女性農業者5人からなる「くりでん娘」は、同直売所内で餅菓子の加工・販売を行っています。

今回は、大崎市三本木の和洋菓子店「気仙堂」のオーナーを講師に、夏の需要喚起のための「水まんじゅう」と、お盆やお彼岸のニーズに向けた「らくがん」を試作しました。水まんじゅうは小豆餡のほか、若柳特産のブルーベリーとずんだの餡も使い、食べやすくカップに個包装しました。らくがんは、きなことすりごまの2種類とし、花型や四角の型、丸型で作りました。

試作品は順次商品化され、今後の「くりでん娘」の売上増や直売所の活性化に繋がるものと期待されます。



栗原農業未来塾について

普及センターでは、栗原農業未来塾として、新規就農者等の経営能力向上を目的とする「就農予定者～5年目コース（以下、5年目コース）」と、農業を含む食関連産業への就業を志す高校生の農業経営への関心を醸成することを目的とする「在学中コース（以下、在学中コース）」を開催しました。

<5年目コース>

7月31日に開催し、水稻やイチゴ、レンコン等を栽培する複合経営の若手農業者及び若手社員の人材育成に力を入れる管内最大規模の農業法人の視察研修のほか、栗原市の農業者支援体制の紹介や水稻育苗ハウスを活用したシャインマスカットの栽培技術講習会を実施しました。参加者の

7人は、レンコンやシャインマスカット栽培に関心が高く、活発な質疑・応答が交わされ、今後の普及拡大に手応えの感じられた研修会となりました。



<在学中コース>

9月6日に開催し、迫桜高校アグリビジネス系列の生徒を対象に、農産物直売所「あぐりっこ金成」と家族経営の鉢物生産農家の視察研修を実施しました。生徒達は、普段の授業では学べない直売や生産に関する工夫や苦労話を興味深く聴講していたので、今後の進路選択の参考となったものと思われます。



農業機械による農作業事故防止に努めましょう

農林水産省によると、農業機械作業中の死亡事故の発生場面は、ほ場等での農作業中のみならず、移動中や準備中の死亡事故が全体の約4割を占めています。機械に近づき、機械から離れるまで注意を怠らないことが重要です。

また、トラクター等走行中の転倒・転落事故防止のため、機械の点検・整備をきちんと行うとともに、ゆとりを持った作業計画をたてる、ヒヤリ・ハット体験を家族や周囲と共有する、路肩の強度が弱いところに注意した運転を行うなどして、死亡事故の未然防止に努めましょう。

「いのしし」に関する情報提供とお願い

近年、野生鳥獣による農作物被害が全国的に深刻な問題となっています。栗原市内でも被害が拡大しており、農業分野では、主に「ツキノワグマ」と「いのしし」が問題となっております。

特に「いのしし」については、水稻や野菜への食害にとどまらず、ほ場の掘り起こしや畦畔を崩すなど、作物の減収のみならず、営農意欲を大きく低下させてしまいます。

普及センターでは現在、栗原市と連携し、地域住民共働のもと「地域ぐるみの鳥獣害対策（いのしし）」を調査・実施しております。

調査結果はまとまり次第、皆様に情報提供いたしますが、いのしし対策は「点（個人）」での取組では効果が薄く、「面（地域）」での取組が必要となります。地域が一丸となり、「鳥獣害対策」に取り組みましょう。

～お知らせとお願い～

9月14日、岐阜県の養豚農場において、家畜伝染病である「豚コレラ※」が発生しましたが、そこから半径10km以内で死亡していた野生いのししからも豚コレラウイルスが確認されました。

これを受け、宮城県においても農林水産省の指示に基づき、死亡した野生いのししの豚コレラ検査を実施しております。近くで死亡した野生いのししを発見した際には、手を触れることなく、また躊躇せずに普及センター宛電話連絡をお願いします。

※豚コレラは、豚、いのししの病気であり、人に感染することはありません。また、感染豚の肉が市場に出回ることもありません。

畜産 牧草への放射性セシウム移行抑制対策について 畜産

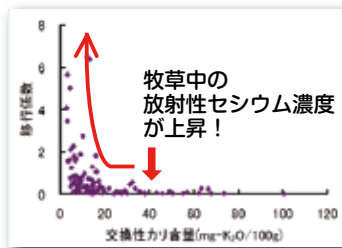
草地をしっかりと管理していますか？

土壤中の交換性カリ（以下カリ）含量が低下すると、放射性セシウムを吸収しやすくなる可能性があります。土壤分析に基づく管理を行い、土壤から牧草への移行抑制対策を行いましょう。

1. 土壤中のカリ含量を適切に維持しましょう

土壤中のカリ含量が低い場合、牧草の放射性セシウム濃度が高くなる場合があります。

栗原農業改良普及センターでは土壤診断を行っています。診断結果に基づいた施肥を行い、土壤中のカリ含量 40mg/100g、pH6.5 を目指しましょう。



↓：土壤中のカリ含量が 40mg/100g 以下だと、牧草に放射性セシウムが吸収されやすくなる傾向がある！

※移行係数 = 牧草の放射性セシウム ÷ 土壤の放射性セシウム濃度

図1 土壤（乾土 100g）のカリ含量が牧草への放射性セシウム移行に与える影響（畜産研、2012）

*カリの過剰施肥は牛のグラスステानी（マグネシウム欠乏）や乳熱（低カルシウム血症）を誘発する可能性があるため注意しましょう。

2. 収穫調製作業中に、土壤が牧草に付着・混入しないように気を付けましょう。

*10cm 以上の高刈りにつとめましょう。

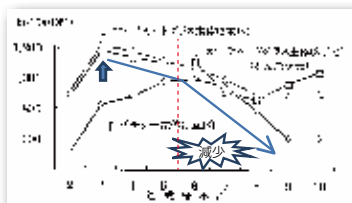
*テッダ、レーキ、ベアー等反転・集草・収穫梱包機械の作業面を地面に接触しない高さに設定しましょう。

*作業は低速で行い、土壤の混入や土埃の巻き上げを抑えましょう。

3. 草地更新を実施しましょう。

草地更新から 5 年程度経過している場合、草地の生産力は低下します。

草生の回復も兼ねて、草地更新により表層を耕起して土壤を混和しましょう。



↑：オーチャードグラス主体草地では、草地更新後、3年目に収量のピークを迎え、6年目あたりから減少率が大きくなる。

図2 牧草生産量の経年推移（粗飼料・畜産ハンドブック）

草地更新を行って生産力を高めつつ、土壤診断結果に基づいた施肥を行い対策に努めましょう。なお、牧草中の放射性セシウム濃度を知りたい方は、栗原地域事務所畜産振興部で受付しておりますので、是非ご相談下さい！



○農地を貸したいが、貸す相手が見つからない。

○後継者の見込みがないので、自分で耕作できるうちは農業をやりたいが、その後のことは考えていない。

上記のような悩みを抱えている方がおりましたら、ぜひ「農地中間管理事業」の活用を

御検討ください。本事業では、公的機関である公益社団法人みやぎ農業振興公社が、農地を貸したい農家と借りたい農家を仲介し、貸し借りを円滑に行います。制度に関する御質問等がありましたら、当栗原地域事務所農業振興部地域調整班（0228-22-2268）までお問い合わせください。

平成30年度宮城県総合畜産共進会がみやぎ総合家畜市場にて開催されました。

平成30年9月14日、15日に宮城県総合畜産共進会【肉用牛の部】が、9月25日に【乳用牛の部】がみやぎ総合家畜市場にて開催されました。

栗原管内からは、【肉用牛の部】に14頭出品し、第4区高等登録群にて最優秀賞と団体名誉賞、【乳用牛の部】には8頭出品し、第5、6区にて最優秀賞を受賞しました。

県内全域から多くの肉用牛や乳用牛が出品された中で、栗原市の畜産をアピールすることができました。受賞者の皆様、おめでとうございます。



乳用牛の部
第5区
最優秀賞獲得



肉用牛の部 名誉賞獲得

平成30年度 宮城県総合畜産共進会受賞者一覧 (敬称略)

区 分		氏 名	
名 誉 賞		栗原和牛育種組合 (生産局長賞、宮城県議会議長賞)	
第4区 高等登録群	最優秀賞	栗原和牛育種組合	

区 分		氏 名		地区
第2区 未経産 生後12カ月未満	最優秀賞2席	有小山牧場		一 迫
第5区 未経産 20カ月以上 24カ月未満	最優秀賞1席	鈴木慶博		一 迫
第6区 経産 3歳未満(後代検定娘牛)	最優秀賞1席 ベストアダー賞	伊藤紀彦		志波姫

< 新任農業士の紹介 >

今年度、栗原市内から新たに指導農業士1人、青年農業士1人が宮城県知事より認定されましたのでご紹介します。

☆三浦和栄氏 (指導農業士、志波姫)



平成12年に「有限会社サンアグリしわひめ」の設立に携わり、平成27年からは代表取締役として法人経営を担っています。ダッチライト型ガラス温室でトマトの長期多段取り栽培を実施しており、冬期の燃油高騰対策としてヒートポンプを導入して省エネ化を図っています。さらに、機械整備に明るく、施設のメンテナンスやパーツ交換を自ら行い維持管理コストを軽減しています。

販売面では、市場出荷を中心としつつ、量販店との契約栽培や直売所での販売を交えて販売の安定を図っています。また、「地域雇用・地域貢献・地域の和」を合い言葉に、地域から女性従業員を多数雇用し、生産管理に従業員の意見を重視することで「サンひめっこトマト」のブランド化に取り組んでいます。

☆大内貴生氏 (青年農業士、瀬峰)



平成18年に就農し、水稲及び施設・露地野菜の複合経営を行っています。水稲部門では、複数品種(ひとめぼれ、つや姫、萌えみのり、みやこがねもち)栽培により経営の安定化を図っており、野菜部門では、施設でミニトマト、スナックエンドウ、ズッキーニ(促成)、露地でカボチャ(普通、抑制)、ズッキーニ(春まき)を栽培し、JA経由で市場出荷しています。

就農直後から栗原4Hクラブに参加し、平成22年には会長を、退会後も顧問を務め、後進の指導にあっています。また、JA栗っこ青年部委員も務めており、若手農業者から厚い信頼を寄せられており、さらには、瀬峰地域の循環型農業の取組である「瀬峰農場」にも積極的に協力しています。

新規就農者紹介



・氏名: 熊谷(心)さん
(平成10年生まれ・築館)
・勤務先: 農事組合法人 iファーム(志波姫)

~「雇用就農」で拓く、地域の未来と自身の「夢」~

「雇用就農」という新たな形態で新規就農し、地域農業の更なる発展と自身の夢を胸に秘め、積極果敢に営農活動を展開している新規就農者を紹介します。

心さんは平成30年3月に宮城県農業大学校園芸学部を卒業し、同年4月からiファームの社員になりました。

現在は雇用1年目であることから、水稲や大豆、野菜(キャベツ)等栽培の補助作業に従事するかわら、作物ごとの品種特性把握や栽培管理技術習得に努め、「一作でも自分に任せてもらえる社員」となることを目標に、日夜奮闘されています。

熱心で好奇心旺盛な心さんにはある大きな夢があります。それは、経営品目として「果樹(モモ、ブドウ)」を導入することです。iファームでは現在、土地利用型作物を中心と

した経営を行っています。夢の実現のため、様々な機会を通して、技術と知識の習得に余念がありません。

組織内の風通しが非常に良いiファーム、三浦代表理事曰く、「将来の経営のバトンタッチを見据えた育成」を念頭に指導しつつ、その期待に応えるべく真摯に努力している心さんは、今後、地域内農業者の牽引役となることが期待されます。

そんな心さんですが、「農業への想いを共有し、同じ価値観を持つ」花嫁を絶賛大募集中です。将来の栗原農業を背負って立つ若者への情報提供をお願いします。(文中法人名敬称略)



三浦代表理事と酒井先輩

農業用廃プラスチック類は適正に処理しましょう!!